

県外産乳用牛で発生したヨーネ病と導入時検査の課題

題：伊那家畜保健衛生所 小林憲一郎

2014年6月、家畜伝染病予防法第5条（5条）ヨーネ病定期検査で患畜1頭を確認。スクリーニング法（KS）及びリアルタイムPCR法（rPCR）陽性。ヨーネ病患畜の発生は県内では2年6か月ぶり、rPCRでの判定は県内初。本患畜はヨーネ病特有の臨床所見はなく、剖検所見及び組織所見はあり。菌分離陽性。2013年5月に19か月齢でこの発生農場に導入された県外産乳用牛で、導入時のKS陰性。本県では2012年度からKSを採用。当所では2014年12月15日までに5条定期検査を5,530頭実施し、KS陽性は9頭、うち患畜は本例1頭。また、導入時の5条検査は75回500頭実施し、本患畜を含め全頭KS陰性。現行の導入時ヨーネ病検査の課題として、①導入情報の迅速正確な把握、②抗体陰性排菌牛の捕捉、③患畜決定までの検査回数及び時間などを認める。課題①については、農家及び組合等への啓発強化、同②及び③については、検査方法をより特異性の高いrPCRに変更することなどで解決可能と考察。